

文部科学省「研究大学強化促進事業」東北大学 ～知の国際共同体形成にむけて～

平成25年度配分予定額：400百万円

東北大学を中核とする－ 知の国際共同体形成 －
“人が集い、**学び**、**創造**する、**世界**に開かれた**知の共同体**”

○強化方針

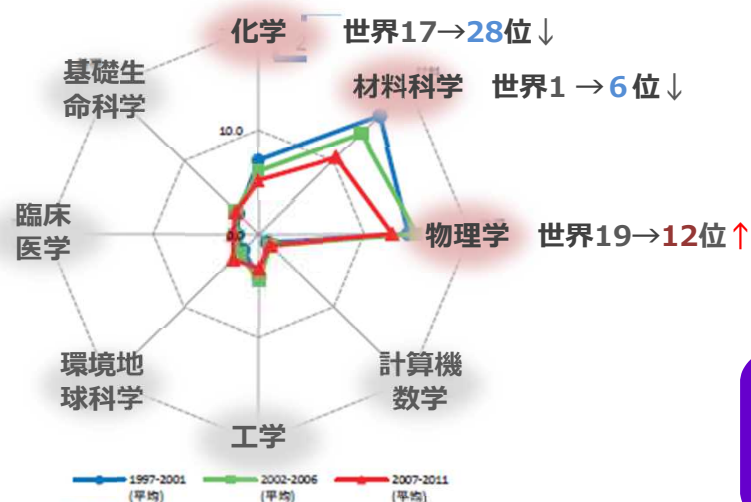
- ◆ 研究戦略の明確化
- ◆ 国際共同体の形成
- ◆ 将来のグローバル・リーダー育成
- ◆ 国際水準キャンパスの整備、事務の国際化

○取組内容

- ◆ URAセンターを充実し、世界の研究・社会動向と本学の研究力を解析し、研究戦略を“見える化”によって立案支援し、ベンチマーク大学や研究機関・研究者を選定し、それらの大学等からの訪問・滞在研究者を増加させる。
- ◆ 人類社会の共通課題解決に貢献し、東北大学発の先駆的研究領域を開発するため、訪問滞在型研究センター「東北大学知のフォーラム」を設置する。
- ◆ 「海外リサーチ・ステーション」を置き、将来のグローバル・リーダーとなる若手研究者を中長期海外の研究機関に滞在させ、そこで生まれたアイデアを熟成するための国際共同研究・国際共同プロジェクトを格段に増加させる。
- ◆ 訪問滞在研究者が円滑に定着するための支援を行う「リサーチ・レセプションセンター」や「国際対応事務部門」などの受入れ体制を整備し、リサーチ・レセプションセンターを核に東北大学の事務国際化を加速する。

1. 研究活動の強み・弱みや課題等の状況分析

被引用数世界シェア (千分率) NISTEP 2012年8月



強み ・国内での高い地位を維持
 ・世界でも突出した強み分野が有る

弱み ・被引用文献数が減少傾向
 ・強み分野でも世界での存在感の低下

その他の課題
 ・世界トップクラス大学との共著論文数の低下
 ・獲得する外部資金の小型化

克服すべき点

- ・若手研究者が新分野への挑戦よりも手堅い研究分野を選択
- ・戦略性に欠ける国際連携
- ・控えめなリーダーシップ

現状分析から導かれたこと

- ・「知の国際共同体」形成
 - ・戦略機能の強化
 - ・ベンチマーク大学の設定 が不可欠
- 未知の領域(最先端研究・新研究分野)の探求にリスクを恐れず挑戦することを支援

2. 方針・目標

強化方針

研究戦略の明確化

国際化に向けた研究支援体制

将来のグローバル・リーダー育成

達成目標

10年以内でグローバルトップ50位以内を達成

トップ1%論文、トップ10%論文など質の高い論文を増加させる

研究成果の社会還元とイノベーション創出を実現

3. 本事業により取り組む研究環境改革の取組

戦略的国際頭脳連携の場「知のフォーラム」による研究力強化



世界トップクラス研究者が知のフォーラムに滞在して、若手研究者と共に未踏分野について白熱議論を展開

<知のフォーラム>



<海外リサーチ・ステーション>

共同研究推進、国際共著論文執筆、ネットワーキング、広報

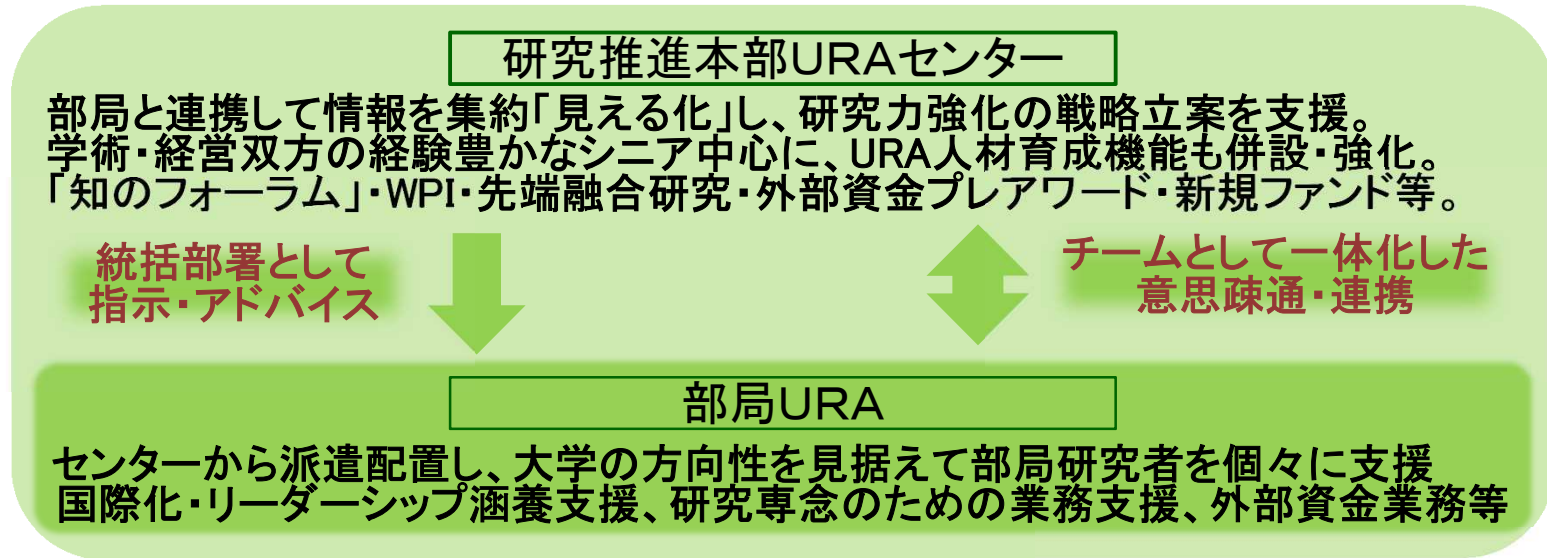
<URAセンター>

未踏分野や、世界の優れたスター・若手研究者の調査、リクルート提言

<リサーチ・レセプションセンター>

国際プロジェクトの事務支援・訪問滞在型研究支援

4. 本事業により取り組むURAの確保・活用の取組



第三の職) 経営・企画・シンクタンク人材として

コミュニケーション・プレゼン・交渉力・ホスピタリティ能力開発

職階制度の構築
スキルアップ研修
キャリアアップ支援

企業やファンディングエージェンシー
官公庁・大学との人材流動性
(インターンシップ制度)



5. 本事業により取り組む制度改革

- 人事制度改革**
- ・ ジョイント・アポイントメント制度
 - ・ 客観的指標に基づく適正処遇制度
 - ・ 年俸制
 - ・ URA職階・処遇

- その他**
- ・ スター研究者の受入れ制度
 - ・ 国際対応事務研修制度